



MRIによるアルツハイマー病の早期診断プログラム開発における病理学的検証実験

2月6日[金]
10:00・11:30



場所 ※対面での開催です
保健科学研究院B棟1F小会議室

対象 研究者、大学院生

※事前申込みは不要です。
当日会場へお越しください。

館脇 康子先生

東北大学 加齢医学研究所
脳科学研究部門 臨床加齢医学研究分野 講師

アルツハイマー病（AD）の病態修飾療法の普及に伴い、臨床現場では早期段階でのアミロイド β （A β ）の病理学的情報に基づく診断支援が重要となっています。しかし現状の A β 評価は、アミロイド PET や髄液検査など限られた手段に依存しており、侵襲性・費用・実施施設の偏在に起因するアクセス格差や検査キャパシティの制約が課題です。本講演では、この状況のブレーカスルーとなりうる、MRI 画像から A β 病理を非侵襲的に推定する早期診断プログラムの開発状況を概説し、その学術的妥当性を担保するための病理学的検証実験の設計思想と展望を報告します。

お問合せ：保健科学研究院 医用生体理工学分野 准教授
福永久典 hisanori.fukunaga(at)hs.hokudai.ac.jp

主催：北海道大学大学院保健科学研究院 公開講座委員会